

まちづくりコーディネーターの活動状況について （8月20日現在）

1 活動報告

《令和7年度実績（第3回共存・協働のまちづくり推進委員会以降） 2件》

関係先	内容	人数	自主活動
自治会	①3/7 チャレンジフェスタやってみりん【新規】 刈谷西部自治会主催イベントの企画・運営に中学生とまちコくらぶが協力	7	○
市	②3/15 ファンドレポートの作成（市民協働課）【定例】 取材先：俳優松原実智子さんの朗読を聞く会 VOL.2	2	
合計		9	1

《令和8年度実績 4件》

関係先	内容	人数	自主活動
自治会	①6/24 刈谷市自治連合会勉強会【新規】 まちづくりコーディネーターの紹介及び活用に関する講義	1	
市	②7/31「共存・協働のまちづくり講座」（市民協働課）【定例】 グループワークに市民役として参加	6	
その他 団体	③4/26 実行委員会のファシリテーション（ワールド・スマイル・ガーデンーツ木）【定例】	2	
	④6/13 一ツ木福祉委員会座談会のファシリテーション（刈谷市社会福祉協議会）【新規】	2	
合計		11	0

2 まちコ交流会

（1）第1回【詳細：資料1-2参照】

日 時：令和8年6月6日（土） 10：00～12：30

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ13人、元まちコ・つなぎの学び舎修了生2人、一般12人
（学生、市民活動団体ほか）、世話人2人 計29人

内 容：第1部 まちの活動を知る

第2部 私のまちでの「困りごと」「やりたいこと」を話し合う

(2) 第2回

日 程：令和8年冬頃開催予定

内 容：今後検討

3 つなぎの学び舎・リカレント まちづくりステップアップ講座

【詳細：資料1－3参照】

主に「まちづくり活動をしている人（まちコ含む）」を対象に、実践に役立つ力を高めるための講座。今年度は7月～2月の全5回で、単発参加可能。

※まちコ養成講座は隔年開講のため、次回は令和9年度。

(1) 第1回 7月25日（土）

「『当たり前』をちょっと疑う～私のなかの“思い込み”を見つけよう～」

(2) 第2回 8月22日（土）

「想いをカタチにするお金の話～助成金・補助金を味方につける～」

(3) 第3回 9月19日（土）

「みんなの声を宝物にする～バラバラな意見をまとめるコツ～」

(4) 第4回 12月19日（土）

「『みんなで決める』を楽しむ～納得できる話し合いの進め方～」

(5) 第5回 令和9年2月20日（土）

「明日のまちを描いてみよう～未来をデザインする、はじめの一步～」

まちづくりコーディネーター交流会 令和 8 年度 第 1 回

まちとまちコの交流会

- | | | |
|---------|---|----------------------|
| ●日 時 | 令和 8 年 6 月 6 日（土）10：00～12：30 | ●プログラム● |
| ●会 場 | 刈谷市民ボランティア活動センター | 1 開会 |
| ●参加者 | 29 名
（まちコ・世話人 15 名、元まちコ 1 名、一般 13 名） | 2 まちの活動を知る |
| ●全体進行 | 小森義史さん | 3 ワークショップ |
| ●タイムキープ | 水鳥幸子さん | 4 全体報告と感想共有 |
| | | 5 閉会（13:00 までフリータイム） |

●ねらい

- ・まち（対象者：まちでの「困りごと」や「やりたいこと」がある人）とまちづくりコーディネーター（以下、まちコ）が知り合う。
- ・まちでの「困りごと」や「やりたいこと」について話し合い、これからのまちづくり活動への気づきを得る。

1 開会

（1）開会あいさつ（市民協働課 酒田）

- 市役所には多くの部署があり、職員はそれぞれの立場や役割でまちづくりに取り組んでいます。その際、市民や団体の皆さんの意見・思いを伺いながら進めていくことがとても重要です。そのため、各主体同士を結ぶ“つなぎ役”を担っている「まちコ」の役割は大変大きいものです。今回は、まちづくりや刈谷市に関心のある多くの方にお集まりいただき、心より感謝します。意見交換や情報共有を通じて、お互いの活動への理解を深め、今後につながる有意義な時間としていただければと思います。

（2）アイスブレイク（山内智子さん（8 期生））

- 各テーブルで「最近痛いところ」にまつわる自己紹介を一人 30 秒ずつ行いました。

2 まちの活動を知る

進行：鈴木小枝さん（3 期生）

（1）まちコの紹介

- 私たちは、刈谷市民の誰もが生き生きと楽しく暮らせるように、人と人、心と心をつなぐ橋渡しの存在です。行政や N P O、地域の団体とつながりたい方々の相談に乗り、「この団体と一緒に何かやりたい」という手助けをします。市民協働課のまちづくりコーディネーター登録制度に登録し、派遣活動や自主活動をしています。

（2）まちコと協力して「困りごと」の解決に取り組んだ事例紹介～地域活動への伴走支援～

（鈴木勉さん（7 期生））



- 自治会長さんから、「自治会行事が毎回同じ内容になってしまうため、企画面で助言がほしい」という相談を受けました。お悩みを整理したところ、自治会長にほぼ全ての業務が集中しており、企画にまで手が回らない状況であることが分かりました。そこで自治会の会議に同席し、他地域の事例を紹介しながら、体制の再編を手助けしました。部門を整理し、各活動の内容を明確にするとともに、部長名を明記したところ、役割意識が高まり、部長が自ら主体的に動くようになりました。

Q：体制が変化するまでに関わった回数・時間はどのくらいですか？

A：6 回会議に出席。事前に自治会長と打合せを重ね、現地に赴きました（全体として関わった期間は 1 年強）。

（3）「やりたいこと」の実現に取り組んだ事例紹介～まちコくらぶ活動～（桑畑忠則さん（5 期生））

- 令和 7 年 5 月「まちとまちコの交流会」で話の出た「中高生のまちづくり部構想」をきっかけに、「チャレンジフェスタやってみりん」と題するイベントを開催しました。

- 市内中学校へ呼びかけて集まった中学生 6 人とともに、10 月から準備を始めました。一人 1 ブースを担当し、ポッチャ・モルック、謎解き、スーパーボールすくいなどを実施。各ブース約 100 人、合計 748 人が参加しました。
- 刈谷西部自治会と連携したことにより、自治会の課題（今回は自治会イベントを盛り上げ、賑わいを創出すること）解決に向け、まちコと中高生が協力して取り組んだ 1 つの例となり、活動資金捻出の可能性も見えました。また、市民協働課の仲介で市内中学校とつながることができたことも大きな成果です。今後は学校の垣根を越え、高校生にも対象を広げながら、「まちコらぶ」として自治会と連携した取り組みを継続していきたいと思います。



- 二宮さん
(ポップコーン担当)

最初は規模が大きくてできるかなと思いましたが、子どもや家族連れがたくさん来てくれて、時間をかければ何でもやれると感じました。



- 板谷さん
(ポッチャ・モルック担当)



企画にあたり皆さんの期待に応えようと頑張りました。当日はやりがいがあり、多くの方が来てくださって、大人の皆さんからのアドバイスもいただき、貴重な経験でした。

- 松浦さん
(お抹茶担当【まちコ 3 期生】)

高校生 2 人が運営に協力してくれ、私とは異なる流派で最初は戸惑いもありましたが、対話を重ねる中で理解が深まり、悪天候の中でも自律的に活動を進めてくれました。



- 水鳥さん
(ポッチャ・モルックのサポート担当
【まちコ 4 期生】)

板谷さんが外国の方に英語で対応していて、とても感心しました。準備は大変だったと思いますが、しっかりやり切ってくれたおかげで、楽しく進めることができました。



Q：学生の参加意欲を高めるポイントがありますか？

A：校長先生を訪ねて活動を説明し、生徒への案内をお願いしました。今回協力していただいた中学校の校長先生は、活動に大変興味を示してくださいました。学校の事情もありますが、中学生が社会の中で学ぶことの意義に対する校長先生の想いも、ある程度関係している印象です。

3 ワークショップ

進行：原保宏さん（6 期生）

(1) テーマを決める

- 事例紹介をふまえ、各テーブルで、私のまちでの「困りごと」「やりたいこと」を話し合いました。テーマリスト（参加者からの提案テーマ・以前の交流会で出されたテーマ）も参考に、話し合うテーマを決めました。

(2) テーブルのテーマを共有（「引越し」「留学」OK）

- 各テーブルで話し合っているテーマをホワイトボードに書き出し、関心のあるテーマがあれば、他のテーブルへ「引越し」したり、参考にして元のテーブルへ戻る「留学」を自由なタイミングで行えることを確認しました。そのうえで、「批判・否定をしない」「前向きに話し合う」というルールを説明し、意見交換を進めました。

A：「全世代が気軽に交流できるまち」

B・D：「地域行事に中高生を巻き込むには」

C：「市民交流に向けた拠点場所の活用」※アピタの前のスーパー横にあるスペースアクアの活用法

E：「自治会長の育て方」



4 全体報告と感想共有

進行：原保宏さん（6期生）

- 意見交換の内容を各テーブルメンバーから全体に向け報告しました。

A:「全世代が気軽に交流できるまち」: SNS が発展して人とのつながりが希薄化していることが課題です。推し活や自治会のイベントなどで、若い方から幅広い世代の市民が顔を合わせて交流する場面を作ることが大切です。



B:「地域行事に中高生を巻き込むためには」

- 1) PR 方法について。お祭りには興味があるものの、その他の行事は内容が分かりにくい。情報を具体的に示すことで参加しやすくなります。どの地域で募集しても、中高生は柔軟なので来てくれると思います。
- 2) 「イベント当日のボランティアに参加するだけ」で終わってしまわないよう、生徒同士が交流し、まちづくりについて対話できる場づくりが必要です。まずは、簡単なイベント準備の段階から、関心・目標・意図を共有する話し合いの機会を設けることで、中高生が主体的にまちづくりに関わるきっかけになると思います。
- 3) 最終的なゴールは、中高生に刈谷に関心を持ってもらうこと。施設・史跡・歴史をテーマにした小さなイベントを企画し、そこで中高生が活躍できるボランティアの場を用意することも、ゴールにつながるのではと考えました。



C:「スペースアクアの活用法」: 商店街の賑わいづくりについて話し合いました。刈谷駅の北側は治安が悪いイメージがあり、居酒屋と酔った大人が多く、中高生は近寄りにくい雰囲気があります。そこで、安心して過ごせる場として、ボードゲームなどを置き、中高生が立ち寄れるスペースをつくる案が出ました。また、大人向けにはコーヒーの日、マルシェの日、お茶の日などを設けて場づくりをするなど、北側一帯に若者が集まれる環境ができれば、安心・安全な街につながるのではないかという意見がありました。



D:「地域行事に中高生のボランティアをどう巻き込むか」: 中高生は家や学校以外の居場所が少ないため、サードプレイスの存在が重要です。みんなで活動したり、話し合ったり、気軽に楽しめる場が必要だという意見が出ました。特に受験生には息抜きが大切で、社会貢献の経験は将来にも役立ちます。大人が楽しんでいる様子や、楽しそうな雰囲気のイベントには中高生が集まりやすいため、楽しさや交流が生まれる仕組みをつくるのが大切だと思います。



E:「自治会長の育て方」: 風通しの良い組織づくりのためには、自治会長の研修や住民会議、意見交換の場、相談会、他自治会との情報共有が必要だという意見が出ました。また、他自治会の取組やコミュニケーション方法を参考にできるとよい。ため、良い事例があれば助言をいただきたいという声もありました。防災や組織運営など学ぶテーマは多いですが、役職者を“見える化”することで参加の敷居が下がるのではないかと話し合いました。



5 閉会

(1) まちコくらぶ PR (安部真さん(5期生))

- まちコくらぶミーティングを6月から第3火曜日 19:00~20:30に変更して開催します。6月16日(火)は刈谷市民ボランティア活動センターで対面開催、7月以降はオンラインを基本としますが、3ヶ月に1回は対面開催を予定しています。

(2) 閉会あいさつ・事務連絡 (市民協働課 遠藤)

- 「まちづくりステップアップ講座」前期は7月、8月、9月、後期は12月、令和9年2月の土曜日午前中に開催します。前期分の申込締切は6月26日(金)です。本日の新しい出会いが今後の活動の後押しになることを願っています。



(3) 写真撮影&アンケート記入&放課後タイム

- 放課後タイム・・・あちらこちらで対話の輪が広がっていました。
- 連絡・・・次回は「令和8年初冬」を予定しています。ぜひご参加ください。



まちづくり ステップアップ講座

各回定員
30名
程度

参加費
無料

単発
受講可

まちづくりは、「一人の20歩」より、「20人の一歩」の方が効果も楽しさもアップします！
体験や演習を通じて、まちづくりの現場で役立つ力を楽しく身につけていく講座です。

第1回 7/25 (土)

「当たり前」をちょっと疑う
ー私のなかの“思い込み”を
見つけようー

無意識の決めつけが視野を
狭めることを知り、自らの発想を
広げる土壌を育みます。

講師：稲葉久之さん

第2回 8/22 (土)

想いをカタチにするお金の話
ー助成金・補助金を
味方につけるー

やりたい活動を支えるための
資金の仕組みや、想いを伝える申請の
コツを優しく学びます。

講師：織田元樹さん

第3回 9/19 (土)

みんなの声を宝物にする
ーバラバラな意見を
まとめるコツー

バラバラに出されたたくさんの
意見から、大切な共通点やヒントを
見つける手法を体験します。

講師：稲葉久之さん

第4回 12/19 (土)

「みんなで決める」を楽しむ
ー納得できる話し合いの進め方ー

反対意見も大切に扱いながら、
参加者全員が「これなら納得！」と
思える案を導き出します。

講師：稲葉久之さん

第5回 2027年 2/20 (土)

明日のまちを描いてみよう
ー未来をデザインする、
はじめての一歩ー

理想の未来を想像し、実現にむけた
一歩を描く計画づくりを学びます。

講師：稲葉久之さん

[時間] 9:30～12:30

[会場]
刈谷市民ボランティア活動センター
(刈谷市東陽町1-32-2)

[対象]

- ・刈谷市で自治会・女性の会・子ども会・
公民館活動といった地域活動や、ボラン
ティア・NPO活動などのまちづくり
活動をしている人／したことのある人
- ・福祉・教育・文化芸術等の分野でコーディ
ネーター役を担っている人、行政職員等

申込方法

申込WEBフォーム、または、裏面の参加申込書に必要事項を記入の上、郵送・FAXもしくは
直接、刈谷市市民協働課へお申し込みください。

※書類選考を行い、結果は全員に通知します。

申込締切 【前期 (第1回～3回)】 6/26 (金) 【後期 (第4回～5回)】 11/24 (火)



【前期】



【後期】

■申込先・問合せ先

刈谷市役所市民協働課 〒448-8501 刈谷市東陽町1-1

【TEL】 0566-95-0002 【FAX】 0566-27-9652 【E-mail】 kyodo@city.kariya.lg.jp





講師紹介



全体ファシリテーター・第1回、第3～5回講師

稲葉 久之 さん

大学で国際開発学を学び、青年海外協力隊、NGOなどアフリカで5年間活動。その後、国内まちづくりNPOや地方創生事業に従事し、2017年からフリーランス・ファシリテーターとして活動。大学の非常勤講師（愛知淑徳大学、金城学院大学、日本福祉大学、名古屋市立大学）、特定非営利活動法人アイキャン理事。



第2回講師

織田 元樹 さん (特非)ボラみみより情報局 代表理事

1999年7月「ボラみみより情報局」を設立。ボランティア情報誌「ボラみみ」を1万部発行し地域のスーパーや書店など700箇所継続的に無料配布してきたほか、物資寄贈、広報物制作、イベント・研修、相談など、ボランティアやNPOに関わる多様な事業を展開。

R8年度 つなぎの学び舎リカレント まちづくりステップアップ講座 参加申込書

(フリガナ) 名前			
住所	〒		
電話番号	日中に連絡が取れる番号を記載してください。	メール アドレス	
年齢	歳	職業 (学年)	学生の場合は、学年も記載してください。
参加希望 講座	ご希望の講座にチェックをしてください。※複数選択可 前期 ☐ 7月25日(土)「当たり前」をちょっと疑うー私のなかの”思い込み”を見つけようー ☐ 8月22日(土) 想いをカタチにするお金の話ー助成金・補助金を味方につけるー ☐ 9月19日(土) みんなの声を宝物にするーバラバラな意見をまとめるコツー 後期 ☐ 12月19日(土)「みんなで決める」を楽しむー納得できる話し合いの進め方ー ☐ 2月20日(土) 明日のまちを描いてみようー未来をデザインする、はじめの一步ー		
参加動機			
備考 通信欄	その他、連絡すべき事項がある場合は、こちらに記載してください。		

申込方法

申込WEBフォーム、または、参加申込書に必要事項を記入の上、郵送・FAXもしくは直接、刈谷市市民協働課へお申し込みください。

※書類選考を行い、結果は全員に通知します。

申込締切 【前期(第1回～3回)】6/26(金) 【後期(第4回～5回)】11/24(火)

▶ 前期WEBフォーム <https://tzk.graffer.jp/city-kariya/smart-apply/apply-procedure-alias/r8machidukuristepup-zenki/door>

▶ 後期WEBフォーム <https://tzk.graffer.jp/city-kariya/smart-apply/apply-procedure-alias/r8machidukuristepup-kouki/door>



【前期】



【後期】

共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

【部会の協議方針】

- ・地域活動の活性化に向け、共存・協働により各自治会などで取り組まれるとよいことについて検討する
- ・課題が具体的にになっている地域をモデルに取組を考える

1) ヒアリング日程

日時及び会場：令和 8 年 5 月 28 日（木）13 時～15 時 刈谷市民ボランティア活動センター

対応者：小垣江西高根を明るく元気にする会 高橋さん・小山さん・米田さん、平野自治会長

参加者（敬称略）：【まちコ】桑畑、【世話人】大野

【市民協働課】遠藤、前川、和田、【ボランティアネイバーズ】三島、遠山

2) ヒアリング結果は、以下「テーマ 6」のとおり。

※マーカー部分は、「共存・協働により取り組まれるとよいこと」の好事例や種となりうる事柄である。

テーマ 6	歩いていける範囲での交流を、組の単位でつくる	
	小垣江地区の西高根組は、50 年余前、企業分譲から住宅化した際に移り住んできた住民が多く、一気に高齢化が進んでいます。「いきいきクラブ」や「子ども会」が既になくなった中で、高齢者やその他世代が集う機会を提供しているのは、元地区委員が有志と結成した「小垣江西高根を明るく元気にする会」です。 会発足の背景には、地域の野良猫問題を解決するために始めた TNR 活動*があり、活動費の捻出など持続的に取り組むための工夫から、バザー・講座・会員募集と活動の幅を広げてきました。現在は、組という小さな単位を活かし、会の名の通り、住民が明るく元気になり、環境が改善され、地域内でコミュニケーションが図られるような様々な取り組みを、従来の自治会とは一味違う柔軟な運営で行っています。 * TNR 活動 = Trap/Neuter/Return の略。野良猫に不妊去勢手術や適切な世話をし寿命をまっとうするまで管理し、殺傷することなく減らしていく活動。地域ねこ活動の中で用いられている。	
小垣江地区 西高根組 基本情報	小垣江地区は 6,269 世帯、全 20 組。 西高根組は 122 世帯、全 9 班。うち、自治会加入世帯 100 世帯（R8.4.1 現在）。	なじみやすい地域のタイプ（状況） ・いきいきクラブなどに代わる地域活動がほしい ・歩いていける範囲での地域づくりをしたい ・転居してきた住民が多く交流の場が必要

ポイント 1

歩いていける場で行われる多彩な交流イベント

「小垣江西高根を明るく元気にする会（以下、「元気にする会」と表記）」のメンバーは、現在 10 名。月 1 回、第 3 月曜 19 時～20 時に定例会議を行って、季節ごとのイベントの企画・運営を行っています。主なイベントは、桜まつり、夏祭り、餅つき大会、作品展示。その他、高齢者の自主的な運営で、健康マージャン、手芸、ヨガ、卓球、伊勢型紙など、多彩な定期サークル活動を集会所及び周辺で行っています。

交流の場づくりに取り組むようになった背景には、高齢者の暮らしへの問題意識がありました。西高根組のように、宅地開発で同じ時期に同じような年代の人たちが住み始めた地域では、一気に高齢化が進みます。近隣の歴史の長い地域とは違って神社や山車のような人がつながる基盤もなく、成長した子どもたちは他の地域で暮らす世帯も多い。いきいきクラブは必要人数が集まらず解散してしまった…。そんな状況の中、高齢者が家に閉じこもらないよう、歩いて行ける交流の



場が必要」と考えたのです。さらに、もう一つの理由として、以前地域で生じていた野良猫問題（後述）がありました。一部の高齢者が寂しさから野良猫に餌を与え、心の拠りどころにしていたのです。こうした状況を改善するためにも、高齢者が集えるような居場所を作りたいかったのです。様々なサークル活動が集会所で行われることで、例えば、ヨガをした後、参加者同士がお茶を飲みながら、色々な情報交換をすることができます。おこしものづくりの講座は、86 歳の方が講師を務めます。こうしてサークル活動は、高齢者の寂しさ解消と生きがいの創出、そして野良猫への餌やりの減少につながっていききました。なお、元気にする会で行うイベントも、こうしたサークルの方々が運営・お手伝いで活躍したり、サークルで作った作品などを展示する場になっています。

行事	内容
桜まつり	桜は桜オーナー制度での寄付、かりや夢ファンド補助金などを活用して植樹し、10 年ほどになる。おこしものづくりを子どもが体験するコーナーあり。小学生が団子焼きをお手伝いして提供。
夏祭り	集会所と近くの公園を使って開催。模擬店は子どもが担当し、スーパーボールすくい・輪投げ・かき氷・的当てなどを実施。子どもの友達がさらに友達を呼んでくる形で、100 名を超える親子が集まる。
餅つき大会	「子どもに餅つきを体験させたい」という高齢者の願いが発端。高齢者・子どもが協力してついた餅は、きな粉・大根おろし・あんこなどで提供。台所作業など、高齢者が自然に役割分担しながら準備に関わり、楽しんでいる。
作品展示	住民やサークルによる写真・絵・習字・手芸などを集会所に展示。桜まつり・夏祭り・餅つき大会時に実施している。住民はお茶を飲みながら展示を鑑賞し、団らんの場となる。

ポイント 2 野良猫問題 = 何とかしないと…の問題意識が核に



元気にする会の背景には、地域を悩ませていた野良猫問題がありました。当時の地区委員さんに、組の一部の住民から「野良猫問題を何とかしてほしい」と要望が入り、組長や地区委員を中心にその問題に取り組むことになりました。野良猫問題は一部のエリアの問題でしたが、猫は移動もするため組全体で協力が必要だと思い、住民に説明し、理解を求めました。当時は「地域ねご活動」を知る人は少なく、市の補助金制度もない頃でした。試行錯誤する中、地区委員さんが「刈谷地域ねこの会」を知り、助言をあおぎながら、活動をスタートしました。

特に苦労したのが不妊去勢の手術費用などの資金問題でした。組内でカンパを募ったり、動物病院で手術費用を減額してもらうなどの協力の他、集会所でバザーや産直品コーナー、おこしものづくり講座、音楽演奏などを行い、多数の参加者を得て、収益金を活動費に充てたりしました。ただ、野良猫問題は 1 ～ 2 年では解決できません。地域ねご活動を続けていくため、短期間で交代する地区委員・組長ではなく、住民有志が中心となり、また地域ねご以外の地域活動も行う団体として、元気にする会を立上げ、会員を募集し活動を行うようになりました。

組内で理解を得るまでには大変な苦労がありましたが、それらを経て、現在は地域の活性化までつながってきています。その原動力になったのは、地域の人たちが「この問題は何とかしないと」思えるテーマがあったこと、そして、色々な機関に相談に行くにせよ「最後は自分で動かしかなければ」という想いが地区委員と賛同者にあったことでした。そうした強い「想い」を持って動き出し、周りに働きかけていけば、必ず応えてくれる人はいます。また、継続して活動を行う中で、地域に住む人同士のコミュニケーションが促進され、地域の活性化につながっているという手応えも感じています。

資金の課題は今も続いています。イベントは誰でも無料で参加できるようにしている中、備品・食材などの費用の工面は悩みのタネでした。自腹を切っていた時期もありましたが、昨年からイベント毎に組から援助がいただけるようになり、企業の助成金も獲得するなど、資金協力の輪も少しずつ広がってきています。また、資金獲得には、プレゼン力のあるメンバーが適材適所で活躍しています。同時に、自分たちで稼ぐことも大事だと考え、イベント会場に募金箱を設置したり、野菜バザーを行うなどにも取り組んでいます。

ポイント3

負担を背負わない柔軟な運営

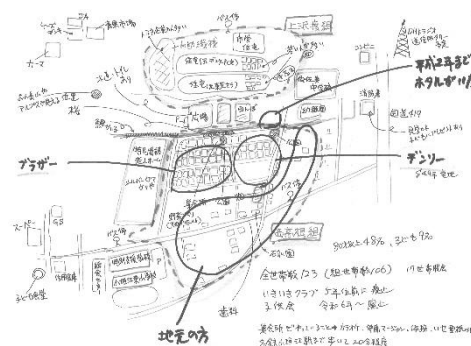
10 人のメンバー内では、次のような役割分担をしています。

- | | | |
|-------------------|---------------|---------------|
| ・回覧板による開催案内書作成 | ・保護者・児童へのお知らせ | ・消耗品の調達（食品以外） |
| ・案内書印刷 | ・器具備品の調達 | ・準備・後片付け |
| ・組長に回覧板用案内書を持っていく | ・業者への連絡、調整 | ・会計 |
| ・案内書を各家庭へ送付 | ・消耗品の調達（食品） | ・議事録 |

具体的には、分担を表にして、定例会で「これでよいですか」と話し合います。それに対しては、「私、ちょっと忙しくて、これできないから代わってください」ということも遠慮せず言ってもらいます。みんなで同意を得て都合に応じて変えていく柔軟な空気があり、一人に負担がのしかからなくて済むような、参加しやすい運営を心がけています。子ども会などでは「『役員が大変だからやりたくない』という人が多くて、会自体が成立しなくなった」という話をよく聞きますが、この会が、定例会の欠席も少なく続いているのは、「この会を続けていきたい」という想いをメンバーがもっていること、そして、柔軟な運営方法により、メンバーが居心地よく楽しんでやっていることの表れだと言えるでしょう。

時には行き詰まりを感じたこともありました。その時、今、地域はどうなっているか、どんな資源があるだろうかと、右図のような地図を描いてみました。すると、「ここに田んぼがあるので、何かできないかな」「このお店や企業に協力を呼びかけようかな」「昔はここにホテルがいたな」という話につながっていくこともあります。

平成 30 年度に、かりや夢ファンド補助金や寄付を活用して植樹した桜の木は、現在では住民の集いの場となっています。木も大きくなり、これまでのボランティアの歩みもそこに見るようで元気づけられます。



ポイント4

多世代が混ざることによって生まれる、多様な関わり

いきいきクラブ、子ども会との違いの 1 つは、メンバーが多世代に渡っていることです。当初は、前年度の地区委員に声をかけ巻きこんでいったのですが、1 年目はやってきても 2 年目まで続かないなどの課題がありました。そこで、サークル活動でチラシを配ったり、知り合いのツテを頼って声をかけたりして、そうしたつながりの中から意思あるメンバーを得ることができました。ただ、どちらかというと、高齢者世代が多かったです。しかし、最近、そこに子育て世代も加わるようになりました。

加わったきっかけは、近所に子育て世帯が引っ越してきた時に声をかけたことです。元気になる会のために、というよりも、「この先、お子さんと一緒にこの地域に住んでいかれると思うが、お子さんが楽しんで参加できるようなイベントを行ってきたいので、一緒にどうですか」という切り口で、その人の気持ちを考えながら呼びかけました。同時に、声をかけたメンバーとその人は以前からの知り合いだったため、信用して聞いてくれた部分もあったと思います。その人は、PTA の役員も務めていたので、学校にも周知を呼びかけてくれ、子どもがイベントにたくさん参加してくれるようになりました。さらには、同世代の消防団仲間にも声をかけてくれ、新規入会の連鎖も生まれました。

多世代が混ざると、イベント実施時に、おこしものや餅つきなど伝統的なものは高齢者が教えるという役割が生まれたり、子どもがお祭りの準備をしていると、人が集まってきて活気が出るといった効果が生れます。また、イベントに参加する中で、それぞれが自然に何かを手伝うなど、役割が固定化されない風通しのよさにもつながっていく側面があります。今後は、中学生に関わってもらうことも検討しています。



現在の活動は、西高根組に住む子ども、子育て世代、高齢者みんなが西高根組のためにやっている活動で、大変素晴らしいことです。しかし、今の高齢者はさらに年を重ね、いずれは活動するのが難しくなっていくことでしょう。そこで、「他の地域の人を入れること」が必要ではないかと考えています。例えば、近くに工業団地があるため、社員の方に「うちのイベントをボランティアで手伝ってませんか」と声をかけたらどうだろうか。また、市内の他の地域にある団体にも来てほしい…。そういう人たちの力を借りて、住民もその人たちも一緒になって楽しむことができればいいな、と考えています。一方で、会場に足を運べない人に、例えば餅などを「届ける」ような活動もこの先必要になってくるでしょう。

組＝小さな単位で地域の交流活動をしていくのは大切なことで、元気にする会の経験が他の地域に役立つのであれば、お伝えや出張活動も可能です。ただし、その地域で「この問題は何とかしないと」と思えるテーマがあり、問題の解決にチャレンジする気持ちがないと、地域の人に受け入れてもらうのは難しいかもしれません。しかし、核になる人が1人2人いて、そういう人が周りを巻き込んで、少しずつ活動を広めていくことができれば可能になるでしょう。

また、近隣の集合住宅で、西高根組と同じような問題を抱えているところもあります。今後はそういうところと一緒に何か行うようなことも考えてみる余地があるかもしれません。